



## 研究室紹介

### 文学部 地理学科

OKAHASHI Hidenori  
岡橋 秀典 教授

1952年、奈良県斑鳩町に生まれる。名古屋大学文学部卒業。名古屋大学大学院文学研究科博士課程単位修得後、博士(地理学)の学位取得。九州大学助手、新潟大学講師を経て、広島大学文学部、同文学研究科で講師・助教授・教授。2018年より本学文学部教授。この間、オーストラリア・インスブルック大学客員研究員、広島大学総合博物館長、同現代インド研究センター長などを務める。現在、日本学術会議連携会員。専門は人文地理学、農村地理学、現代インド地域研究。著書に、『現代農村の地理学』(単著、古今書院、2020年10月刊行予定)、『周辺地域の存立構造-現代山村の形成と展開』(単著、大明堂)、『インドの新しい工業化』(編著、古今書院)、『台頭する新経済空間—現代インド4』(共編著、東大出版会)、『Emerging New Industrial Spaces and Regional Developments in India』(編著、Manohar)などがある。2007年日本地理学会賞(優秀賞)受賞。

「文化や自然遺産の宝庫というイメージが強い奈良の地は、実は地域創生を考える絶好のフィールドです。」と語る岡橋秀典教授。都市化した近郊農村から過疎に悩む山村まで、幅広く多様な地域問題を抱える農山村の変化と地域づくりについて、奈良の地の利を生かしながら研究を進めています。

### 好きなことを極めよう

私は、小さい時から地理的な事柄が好きでした。奈良県の農村部に生まれましたが、川、池、山などフィールドを駆け回る毎日で、近くの大和川でよく遊んでいました。中学校、高校に行く頃には、急速に都市化が進んできました。一面の田んぼがあったと言う間に住宅団地が変わり、少し離れたところで高速道路の建設が進んでいました。こうした地域の変化がなぜ起こるのか、どのように進むのかに、興味が湧いてきました。他方、家が農家だったので、農学部で農業を勉強したいという気持ちもありました。高校では理系の農学部志望のはずだったのですが、高3になって地理学への関心止み難く、結局文学部に進学しました。でも大学院に進学してから、農業・農村地理学を研究するようになりましたので、好きな事がうまく結びつきました。不思議なものです。

### 研究は継続が大事

私は二つのテーマを研究してきました。一つは変貌著しい現代日本の山村研究、もう一つは急成長する現代インドの研究。ともに長く研究を継続してきました。ずいぶん違うテーマのようですが、地域変化とその要因を追求する点で、高校生時代の関心が今も根底にあるように思います。大学院を出た後、しばらくは日本の過疎山村の研究をしていたのですが、インド研究に蓄積のある広島大学に職を得たことで、インド研究を始めることになりました。インドでは精神的にも、体力的にも鍛えられましたが、フィールドワークに焦りは禁物、諦めないこと、そして研究を継続することの大切さを教えられました。ここでも二つのテーマが交差し、インドヒマラヤの山岳地域の研究に結実しました。今は、日本、インド、オーストラリアの山岳地域の国際比較研究が新たな課題になっています。

### 地理学で俯瞰的な視野を身につけよう

地理学は幅の広い学問です。自然、人文にまたがる多様な事柄が入り込んできます。それゆえ、いろんなことが勉強できるのですが、大事なことは、それらを俯瞰的に見て全体像を追求していくことです。地図やフィールドワークは、そのような作業を助けてくれます。地図を持って街へ出よう。

### 受験生へのメッセージ

大学の地理学は暗記ものではありません。データ分析に必要な論理的思考力、フィールド(調査地)での行動力やコミュニケーション力などが重視されます。これらは頭だけでなく、身体全体を通して培われるものです。このようにして身につけたことは、社会に出ても十分に役立ちます。我々と共に地理学を学び、世界に大きく羽ばたいてみませんか。

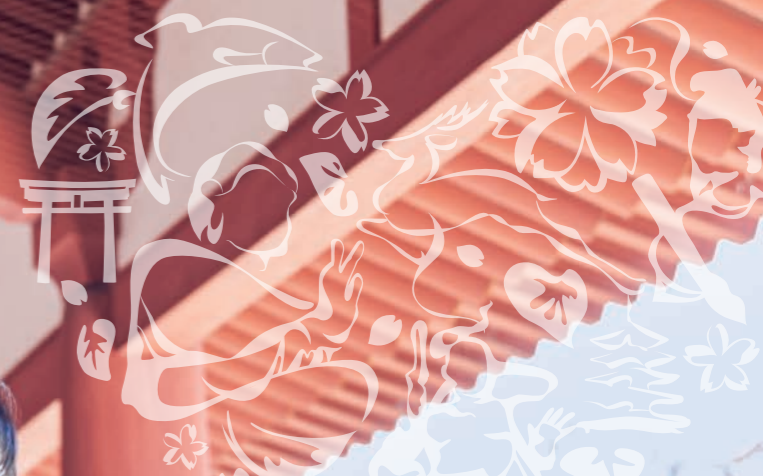
ならぶ Vol.185 ●発行:令和2年9月 ●発行:奈良大学 〒631-8502 奈良市山陽町1500 TEL 0742-244-1251(代) URL <http://www.nara-u.ac.jp/> E-mail [kouhou@ogaki.nara-u.ac.jp](mailto:kouhou@ogaki.nara-u.ac.jp) ●編集:奈良大学広報室



ならぶ  
Na Love

Nara University Bulletin Vol.185

奈良大学  
NARA UNIVERSITY



## 学長メッセージ

国際機関・世界経済フォーラム(WEF)の「グローバルリスク報告書」では、毎年異常気象、大量破壊兵器、サイバー攻撃など世界で起こり得るリスクを具体的に予測しています。予測には、世界で750名以上の専門家と政策決定者が関与し、最新の2020年報告書において「感染症拡大リスク」の発生可能性は27位とかなり低い評価でした。事前に予測困難で、起きた場合の影響力が非常に大きい危機は「ブラックスワン」と呼ばれますが、今回の新型コロナウイルス感染症は、まさに「ブラックスワン」であり、瞬く間に世界全体に広がり、世界経済や社会に甚大な影響を与えました。この感染症の蔓延を目の当たりにして、現代の人々の活動や経済社会の仕組がいかにかグローバルなものとなっているか、皆さん方も実感されたのではないのでしょうか。この危機の特徴は、全世界で同時に起きているということであり、ワクチン、治療薬がない中、どうすれば終息することができるのかの道筋が見えないという点で、不安が広がっています。人類はこれまで、幾度となく感染症の脅威に遭遇し、その都度、それを克服してきました。今我々が直面しているコロナ禍も、全世界の人々の英知と連携によってきっと乗り越えることができるはずです。

さて、このコロナ禍の中で本学も、WHOによって1月に新型コロナウイルスが確認され、国際的な緊急事態宣言が発せられてすぐに、危機対策本部会議を開催し、新型コロナウイルスへの対策を進めてきたところでもあります。特に経済面において、新型コロナウイルス感染症拡大の直接的・間接的な影響で、家計が急変した学生、またアルバイト収入が大幅に減少し、大学での修学の継続が困難になっているものなど学生生活にも経済的な影響が顕著に現れてきており、学生が修学をあきらめることのないよう、しっかりと支えていくことが本学としては何よりも重要だと考えました。

本学では、経済的理由により修学困難な学生に対して、奈良大学緊急支援貸与金や奈良大学遠隔授業の実施に伴う無利子貸与金、奈良大学短期貸与金、学費延分納等の諸制度で経済的支援などの対策を行ってきたところでもあります。国レベルにおいても、日本学生支援機構によるさまざまな支援制度があり、本学学生にも情報提供を随時行い、それら制度の利用を紹介してきたところです。経済面のみならず心の健康面から、全学生が安心して充実した学生生活を送れるよう医務室や学生相談室では困りごとや悩みごとの相談を電話で行っています。

一方、大学生活では、4月以降、登校禁止措置を取ったために、学生達が長期に渡ってキャンパスでの学生生活を送ることができず、また、慣れないWEB授業を受講することにより大学生活への不安を感じ、不便な思いをしておられることを大変心苦しく思っています。教職員一同は、学生の皆さまが、緑豊かな山陵(みささぎ)キャンパスで勉学に励まれ、クラブ活動等で青春を謳歌し、友情を育む機会を失っておられるこの現状を大変憂慮しています。また、何よりも夢を持って本学に入学された新入生の皆さまが今、大学にほとんど入れない状況の中、どのような思いで毎日を過ごしておられるか大変心配しています。山陵キャンパスに笑顔あふれる学生たちの生き生きした姿を一日も早く取り戻したいと願っています。

このように本学では、特に4月16日の「緊急事態宣言」の発令以降、新型コロナウイルス感染症に対する基本方針、行動指針を策定し、各種行事の中止や延期、登校の全面停止、課外活動の禁止、WEB授業の導入などさまざまな対策を講じてまいりました。これらの対策は、キャンパス全体の安全安心を最優先に考え、開学以来、類を見ない事態ではありますが、全学一丸となって取り組み、「自分の命を守ること」「感染拡大の防止に努めること」を第一として、正しい判断と勇気を持った強き行動を、学生、教職員に求め、努力を続けてきたところです。5月25日付で、緊急事態の解除宣言が出されましたが、7月末までは社会経済レベル引き上げの移行期間として引き続き感染症対策の着実な実施が求められている状況に鑑み、本学では前期授業をWEB授業とする方針を継続する一方、安全対策を講じたうえで4年次と大学院の一部演習科目等で対面授業を再開しました。この間、7月上旬にはWEB授業環境整備支援金として通学部の学部学生及び大学院生に一律5万円支給させていただきました。また、9月開始の後期授業におきましては、緊急時にはWEB授業への全面切り替えも視野に入れながら、全開講科目における対面授業の割合を60%くらいの比率(8月末時点)で実施することを検討中であります。

皆さま方と共にこの危機を乗り越え、全ての学生・教職員が健康を害することなく、これからの奈良大学を築くよう取り組んでまいり所存です。今後もより一層のご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

学長

清水 哲郎

SHIMIZU Tetsuro

## Contents

- 1 学長メッセージ
- 3 With コロナの学び
- 7 キャリア関係
- 8 活躍する卒業生
- 9 教育実習に行ってきました!
- 10 入試日程
- 11 クラブ紹介  
写真研究会  
美術部  
書道部
- 13 学生支援
- 14 インフォメーション
- 15 研究室紹介  
文学部 地理学科  
岡橋 秀典 教授



# Withコロナの学び

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行で、私たちの生活環境に戸惑いながら、自ら考え、いろいろな努力や創意工夫をした。社会学部心理学科、総合社会学科の先生にお話を伺いま

の生活は一変し、「社会」や「人」にとってのさまざまな課題も浮かび上がりました。学生の皆さんも、これまでと違った生活・されたことと思います。社会学部は「社会」と「人」について学びを深め、大学での学びを社会に役立てる学部です。Withコロナの日常で皆さんがきっかけにしてもらえたらと思います。そして、皆さんの学びを、本学教職員はしっかり支えて参ります。

## COVID-19感染対策の中に生きて実感する「社会」と「人」の関わり

「健康科学」では、生涯にわたり一人ひとりが健やかに生きる基盤となる「心身の健康の仕組み」を学ぶのみではなく、生命の操作・死の定義など「社会」と「人の生命」の関わりを科学的に探究しています。この授業は、全学科の学生が受講できる「共通教育」科目でもあります。

今年の授業はポータルサイトを通じてスタートし、講義の中で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策をテーマに取り上げました。人々の生命を守る公衆衛生的な体系やウイルス感染症の生物学的な特性を学んだ上で、5月には、受講生が最も注目している点についてレポートを提出してもらいました。健康科学 I と II の500人余りの受講生と教室で会うことはできませんでしたが、さまざまな意見を共有出来ました。

集計の結果、6割の受講生は、感染症の今後の動向や対策などの「社会的な影響」に最も注目し、受講生の多くが、「個人の行動や認識が社会全体の対策と関わる」と考察しました。その一部を紹介します。

(5月22日提出レポートより)

### 「個人の行動が社会に影響する」という考察

- ・緊急事態宣言の解除により、人々の意識が緩み、再度感染拡大しないか危惧する。今一度、一人ひとりが自分の行動に責任を持ち、認識を改める良い機会になるのではないかと。
- ・人との接触の際、僕たち自身で手洗い・うがいなどの基本的な対策を取ることが、より必要になる。感染拡大を防ぎつつ収束後の新しい日常を迎えるには、僕たちが感染予防を徹底することが大切だ。

### 社会の課題に対して今自分が出来ることを考察

- ・医療崩壊が起きないためにも一人ひとりがきちんとした行動を取らないといけない。
- ・クラスターが発生して医療崩壊が起こってしまうと大変だ。そうならないためにも、各自が正しい情報を知り、感染症対策を徹底したい。

副学長  
総合社会学科 教授  
医学博士  
島本 太香子



### 「個人の行動が他者にも影響する」という関係性を意識した考察

- ・登校できるようになった時、人との接触が増える(公共交通機関での通学も)ので、周りの人のことを考えながら行動すべきだ。
- ・もし僕が感染して無症状だったら、自分が感染していると知らず友達としゃべって、その友達も感染し、友達の祖父母などに感染させてしまう可能性がある。そのことを意識したい。

### 社会を意識しながら、自分の毎日の生活のあり方について考察

- ・自分に余裕がなければ何事にも協力的に対処出来ないと思う。まずは自分の生活にどのような影響が出るかを把握し、対応して生活を整えていくことが大切。

### 個人の行動の適切な判断に必要なことについて考察

- ・社会にあふれるさまざまな情報について、デマなどに踊らされないよう吟味しながら利用していくべき。

### コミュニケーションの変化と心身の関わりについて考察

- ・何もかも不安に感じてしまうが、物事を客観視し、冷静にとらえ、ゆっくりと深呼吸するなどの心を落ち着かせる行動を心掛けたい。
- ・コロナの長期化が予想される今、コミュニケーション不足からくる心身の問題に対してサポートが必要。

これらの学生の意見を授業の中で共有したところ、「ほかの学生の考え方に触れて、自分の考えが変わった」「みんなが同じ思いでいることがわかり安心した」という感想が多く聞かれました。他者の意見に耳を傾け、視野を広げることも大学の学びのひとつです。

前期の「健康科学」では、このように思いがけず現実の課題となった感染症対策をもとに、自己管理の必要性だけでなく、自分の周りの他者との関わり方、社会と人との関わりについても探求することができました。そして、答えが一つではない課題に対して、これからも、それぞれの学生が自ら考えていくことを期待します。

## メンタルヘルスを考える

新型コロナウイルスの感染拡大で、不安が尽きない毎日です。皆さんも、自粛を求められ、生活に不自由を感じ、ストレスも多くなっていることと思います。

### コロナ禍のもたらす心理的影響について

#### ●「感染」に対する心理的反応

自分が感染することへの恐怖、「もし感染したら」「人に感染させるのでは」「検査や治療をきちんと受けられるのか」「感染したら非難されるのでは」「家族が感染したら」といった不安など、感染そのものが引き起こす心理的反応です。極端に神経質に消毒したり、マスクをしていない人を過度に攻撃するなどの反応も起こります。

#### ●制限によるストレス反応

自粛によって日常生活や環境が大きく変化しました。休業や失業に追い込まれ、経済的に打撃を受けたことによる抑うつ、それが自殺につながる可能性、ステイホームで家族の密集性が高まり、児童虐待やDV、離婚への発展、ネット依存・アルコール依存や、休校による学業の遅れ、行動を制限されることによるおこる障がい児・者や高齢者の二次的問題など危惧されることはたくさんあります。友達と交流できない、行きたい所に行けないだけでもイライラ感がつのることもあるでしょう。

この他にも、特に医療関係者の過剰労働や緊張による心身の疲労なども問題になります。

#### ●情報に振り回されて起こる反応

テレビやインターネット上では、連日新型コロナウイルスに関して報道がされています。その最も不適切な情報として、根拠のないデマでトレットペーパーが店頭から消えました。日用品の買い占め行動が過剰になりました。正しい情報を得るこ

臨床心理クリニック 所長  
心理学科 教授  
(臨床心理学)  
磯部 美也子



とは大切ですが、情報は不安と混乱も引き起こします。医療従事者への感謝もあれば、一方で差別も起きてしまいます。

このように、臨床心理学や社会心理学の立場から、私たちに起こる問題を客観的に見つめ、その対応を考えていくことは、心理学の役割でもあります。

感染拡大防止を中心に据えた生活が続く中、すべての人々が何らかの心身のストレスを抱えています。メンタルヘルスはみんなの課題となります。今こそ日常を見直し、個々に悩む人だけでなく、社会にどのような支援ができるか、臨床心理学の意義を考えるとときだと思えます。

### 全ての人の「心のケア」に向けて

皆さんは、制限された生活の中で、改めて気づいたこともあるのではないのでしょうか。

友達との何気ない会話・コミュニケーションが活力になっていたこと、SNSも便利だけれど、やっぱり面と向かって話した方が通じやすいこと、マスク着用では表情が読み取れなくて違和感があること、ソーシャルディスタンスと言うけれど親しい人とは触れ合っていると安心すること、身体を動かすことが心の健康にも良いこと、ちょっとコンビニに行くだけでも気晴らしになること、生活が単調になると活力が減退すること等…、いかがでしょう、思い当たりませんか。コロナ禍においても、できるだけ人とコミュニケーションを取り、身体を動かしてみると気分は変わるでしょう。

臨床心理学は、悩む人への援助の実践の学問であるとともに、どうすれば一人ひとりが、生き生きと過ごしていけるのかを探究します。このような時期だからこそ、「こころ」について深く学んでみませんか？

# 心の測り方を学ぶ

心理学 教授 村上 史朗  
(社会心理学)



## 物理的な実体を持たない心の「測り方」

心理学って、少し考えてみると不思議な学問ですよね。私たちは誰でも心を持っているし、自分の心の動きを感じることもできる。心の働きを知りたいければ、自分の心に注意を向ければ良いだけのように思えるのに、なぜわざわざ学問として学ぶ必要があるのでしょうか。その答えは、これまでの心理学研究で繰り返し示されてきた「人間は、自分で思っているほどには自分の心を知っていない」ということです。自分が感じる心の動きが、心の働きを正しく捉えていないのであれば、何らかの形で心の働きを「測定」する必要があります。

ここでやっかいなのは、心には実体がないということです。長さや重さを直接はかるようなことはできませんので、間接的に測定するしかありません。このような間接的な測定は、光を当てて影の形から物体の形を推測するようなものです。光を当てる向きを変えれば影の形も変わるのと同じように、心についても測定法が異なれば現れてくるものが異なります。その意味で、心理学には「完璧な唯一の測定法」というのは存在しません。それぞれの測定法には長所と短所があって、研究目的に応じて使い分けるわけです。

心理学の2年生必修科目である「社会心理学基礎実習」では、このような測定法の中で、質問紙調査法のスキルを身につけることを目的としています。質問紙調査とは、一般にアンケート調査と呼ばれている手法で、質問文に対する回答を分析する手法です。「自分で自分の心の動きがわからないって言うのに、アンケートに対する本人の回答を分析するっておかしいでしょ？」と思われるかもしれません。確かに、自分で意識できない心の動きがある以上、質問紙調査によって心の働きの全てがわかるわけではありません。質問紙調査のメリットは、多くの人からデータを得て、統計的に解析することで個人差を超えた結論を出すことが出来る点です。人は、自分に当てはまることは他の人々にも当てはまると考えがちですが、実際には当てはまらないことも多くあります。自分の心を観察するだけではわからない、一般的な結論に近づくことができるとい

うことが、質問紙調査の利点です。「データは予測を裏切る」とも言われますが、当初は考えてもみなかった結果が示されることもある点も、質問紙調査の醍醐味です。

質問紙調査から正しく結論を引き出すためには、いくつか必要になる技法があり、授業ではそれを学んでいきます。明らかにしたい問題を設定し、それを検証可能な仮説を立て、その仮説を確かめることのできる質問項目を作成し、実際に回答を集めてそれを分析して結果を報告する、という研究の一連の流れを経験します。もちろん、初めから上手くいくことはあまりなく、受講生の多くは何度も失敗しながら学んでいくことになりますが、そうして得た経験や技術は、卒業論文に活かされることとなります。

## 新型コロナウイルスのリスク認知を高める要因は？

今年度の実習では、新型コロナウイルスの影響でグループワークや実際にデータを収集することができませんでした。そのため、「仮説を立て、質問項目を構成する」という点のみに注力しました。その分、通常ならグループごとに立てる仮説を、受講者がひとりひとり立てて質問項目を構成するという形式で授業を実施しました。テーマは、「新型コロナウイルスのリスク認知を高める要因は何か？」です。どのような人が新型コロナウイルスのリスクを高いと見積もるのかについて、学生それぞれが報道や自分の周囲の人を参考に仮説を立てました。実際にこの状況下でパーティーを行うなどリスクを低く捉えすぎている人もいますし、逆にリスクを高く捉えすぎている人もいます。それを分ける要因を探ることは重要な問題です。このように、社会的な問題に対する切り口を得られる点も、社会心理学の面白いところです。

# 奈良大学のWEB授業

総合社会学科 准教授 正司 哲朗



2020年度前期の大学授業は、コロナ禍により、すべて遠隔授業（WEB授業）となりました。現在、大学で行われている遠隔授業は、オンデマンド型とリアルタイム型に大別することができます。オンデマンド型は、学生がポータルサイトや動画サイトなどに掲載されている資料や映像などの教材を好きな時間にアクセスして学修を進めるものです。一方、リアルタイム型は、対面講義のように、あらかじめ開始時間が決められており、その時間に教員から配信される映像を双方向で視聴するものです。それぞれ一長一短があります。

本学で遠隔授業を行うにあたり、学生の学修環境を把握するために、ネット環境の整備状況やPCを所持しているかなどを調査しました。その結果、ネット環境の整備ができていない学生が95%、PCを所持している学生が91%、スマホを所持している学生が99%であることがわかりました。まず、ネット環境ですが、通信会社によって通信制限が緩和され、ある程度は解消されました。次に、学修端末ですが、PCの所持率は9割程度であるため、PC利用を前提とした授業は、受講生の学修環境によっては難しい場合もありました。また、遠隔授業で利用するシステムは、完全にスマホ対応しているとは限らず、スマホを使ってレポート課題を作成することが難しい場合もありました。

ここで、私が行っているオンデマンド型授業の一部を紹介します。遠隔授業を始めるにあたり、オンデマンド型かリアルタイム型かを迷ったのですが、何度も見返すことができ、任意の

時間に学修できるオンデマンド型にしました。しかし、学修するにあたり、必要な環境が整っていない学生もいましたので、データ容量を抑え、PC・スマホからでも容易に閲覧でき、操作性も考慮に入れたオンデマンド型の教材提示システムを独自開発しました。これは、スマホでも簡単にレポート提出が可能で、動画の閲覧、練習問題を提示、解答結果の可視化(下図参照)や、学生の理解度を毎回測り、次回の教材作成に反映させました。遠隔授業になって、さまざまな問題が発生しましたが、これまで以上に、学生の学修効果が高まっていることが実感できています。

後期の授業においては、対面講義、リアルタイム映像配信、およびオンデマンド教材を併用しながら、コロナ禍に対応した新しい授業形態を模索します。その1つとして、対面講義を実施するにあたり、教室での密閉、密集・密接を避けるために、1授業に対して複数教室を活用することで、1教室あたりの受講者数を減らし、複数教室間で双方向のリアルタイム映像配信を行う予定で準備を進めています。

さらに、大学のネットワーク設計を一から見直し、後期からは、学内の通信速度を向上させ、学内Wi-Fiが、全棟で利用できるように拡張しました。これより、教室という閉空間に問われず、キャンパス全体が学びの場として利用可能になりますが、根本的に大学教育の在り方を見なおす時期が来ているのではないかと思います。

The screenshot shows a three-part interface for a web-based learning system. The first part displays a math problem: "10進数から8進数への基数変換" (Base conversion from decimal to octal). It asks for the octal representation of the decimal number 133. The second part shows a video solution with handwritten notes and calculations. The third part shows a quiz result for "設問3" (Question 3), indicating that 50% of students answered correctly. A bar chart shows the distribution of correct answers across four answer options (Ans.1 to Ans.4).

【情報学】オンデマンド型教材

## ■キャリア関係

### Webサイト 就活支援による

新型コロナウイルスの影響で、企業の採用活動が激変しています。合同企業説明会はほとんどが中止となりました。採用活動は、一時中断するなどスケジュールに大きな遅れが出ており、緊急事態宣言解除後の6月、7月から本格化する企業が多くなっています。

採用選考も、対面を避け、企業説明会から面接まで、スマホやパソコンを使ったものになっています。スーツを着て、遠くまで出かけなくて良い反面、自分から積極的に企業を探し応募していくことが求められています。

キャリアセンターによるサポート状況と今後の就職環境について、井上俊文キャリアセンター長に伺いました。



キャリアセンターでは、Webサイトを通して、就活に必要な情報を発信し、動画やオンラインガイダンスで就活を支援しています。

本学と懇意な企業68社の採用情報を掲載するなど、就活生にとって必要不可欠なサイトです。

### Web面談

登校できない学生のために、パソコンやスマホで相談できるようにしています。

履歴書の作成は電話やメールで添削しています。また進路に関する悩みや、企業面接対応については、Web面談という形で、お互いに顔をみながらの支援を行っています。

企業の選考もWeb面接になっていますので、その練習にもなります。



井上 俊文  
キャリアセンター長

新型コロナウイルスは世界経済にも大きな影響を与えています。リーマンショックの時は就活が厳しくなり、就職氷河期と言われました。今回も就職氷河期になる可能性があります。それでもやるべきことをやっていたら怖くありません。

就活の場がWebに移っています。Webの世界を自由に動けるようになることがなにより重要です。そのためにも、パソコンを自由に使いこなせるようにして、自らWebで情報を得て活用できるようにしてほしいと思います。どんな状況であってもキャリアセンターは最大限の支援を行います。

### 就職・資格バックアップ講座

就職・資格バックアップ講座についても、教室での授業をすることができなくなりました。そのために内容を大幅に見直し、特に受講者の多い「公務員試験関連の講座」について、全てスマホやパソコンで受講できる「Web講座」にしました。

その結果、これまで授業と重なって受けられなかった方の申込が増え、これまで以上の受講者でスタートすることができました。

自宅で好きな時間に勉強できる反面、自分から勉強するという意思が必要になるので、受講状況を注視していきたいと考えています。

## ■活躍する卒業生



愛知県埋蔵文化財調査センター  
総務調査課

技師 尾崎 綾亮さん

(文学部文化財学科 2016年3月卒業)

## 都市開発等における 埋蔵文化財の 取り扱いに携わる

### 培った経験・知識を活かして

高校時代に日本史の授業を通して考古学に興味を持ち始め、歴史の舞台である奈良の地で学んでみたいと思い、奈良大学に進学しました。大学の講義や課外での発掘調査のアルバイト、遺物の資料調査を通じて、考古学にのめり込むようになり、文化財専門職を目指しました。実家のある愛知県の公務員試験に合格し、愛知県教育委員会に文化財専門職として採用され、愛知県埋蔵文化財調査センターに配属となり、5年目を迎えました。

現在は、公共事業が実施される箇所の遺跡の有無や取り扱いを判断するための試掘調査と、発掘調査の実施が決定した際に開発側(県の担当課)と調査に関することを交渉する調整業務を主に担当しています。

試掘調査は、実施する面積は小規模ですが、その中で次の段階の調査の有無や取扱いを判断しなければならぬ重要な仕事です。大学時代に講義や発掘調査のアルバイトを通じて学んだ調査技術もこの業務に活かされています。大規模な発掘調査を行う所属ではないため、試掘調査は、数少ない現場での仕事の機会です。私個人としては楽しんで取り組んでいます。

調整業務では、試掘調査によって本格的に調査が必要と判断された遺跡に関して、開発側の意見を聞きつつ、調査を実施する側としての考え方を伝えて、調査面積や条件を調整します。交渉の際、自分が必要と判断したこ

とが実際の発掘調査で活かされているのを見ると、やりがいを感じます。

これまでの4年間でさまざまな業務に携わり、いろいろな経験を積んできました。現在の業務は、これまで蓄積してきた知識や経験を基に、交渉、折衝といったスキルを用いて進めていくものです。まだまだ、こうすればよかった、ああすればよかった、と思うことが多々ありますが、失敗を振り返り、なぜそうなったのかを考えて、次に活かすように日々取り組んでいます。

### 奈良大学ならではの学び

奈良大学文化財学科の大きな特徴は、さまざまな時代、分野を専門とする先生方が揃っていることです。全国的に見ても奈良大学のように文化財学の分野を網羅している大学はありません。自分の研究分野やそうではない分野で疑問が生じた場合に、いつでも先生方を頼りにすることができます。

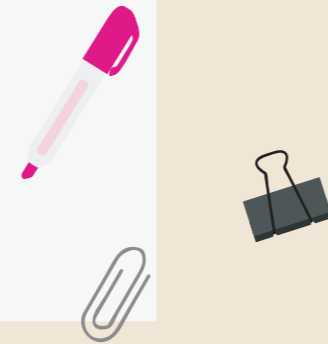
それから大学の周辺はさまざまな文化財で溢れています。建物、神社仏閣、仏像、古墳など多岐にわたります。課外で興味を持ったことを大学に持ち帰り、研究するというルーティーンを作ることができるのも奈良大学ならではの学びだと思います。

学生みなさんには学びながら素朴な疑問を発見し、それを追求してもらいたいです。



文学部国文学科4年  
木山 陽香さん

きました！  
行って  
教育実習に



新型コロナウイルスの影響により実習生の受け入れが難しい中、中学校で3週間の教育実習をさせていただきました。実習前までは3週間がとても長い期間であるように感じていましたが、いざ始まると1日1日があっという間でした。

第1週目は国語科の先生の授業をしっかりと見学し、授業の流れや教え方などを学びました。そのときは教室の後ろに立ってひたすらノートにメモをしていました。第2週目からは教室全体を見て歩き、時にアドバイスや支援をする「机間指導」をしつつ、生徒たちの様子を見ました。休み時間にいきなり話をすると私も生徒も緊張してしまうため、そこで少しずつ生徒に声を掛けてコミュニケーションをとるようにしました。お互い慣れてきた頃、休み時間に教室や廊下にいると、生徒たちの方から声を掛けてくれました。共通の趣味や好きなことで盛り上がり、私が知らない分野であれば生徒にその魅力を教えてもらい、一緒に笑って過ごしました。生徒の新たな

一面を知る度に嬉しい気持ちでいっぱいになり、とても幸せな毎日でした。第3週目から生徒たちの前で授業をしました。授業のはじめ5分を使ってみんなにクイズを出し、楽しい雰囲気から勉強へ入れるよう工夫しました。クイズのときに電子黒板を活用したのですが、私が中学生・高校生の頃は電子黒板を見たことすらなかったため、自分に使いこなせるかが不安で仕方ありませんでした。しかし、「知るには遅すぎたかもしれない」と思ったその時がラストチャンスだと信じ、指導教諭に教えていただきました。

実習が終わりに近づくとつれて生徒たちとの仲も深まり、授業に関しては「みんなで授業をつくる」という一体感がありました。最初は分からないことばかりで不安になったり悩んだりしましたが、この実習を経て、たくさんの方々を支えられていることが分かりました。私にとって大きな成長に繋がった、忘れられない貴重な3週間でした。

## 入 試 日 程

＜試験日程の変更、選抜方法の変更について＞  
今後、試験日程の変更、選抜方法の変更が発生した場合は、速やかに告知、対応を行いますので、本学ホームページ等でご確認ください。

試験	出願期間	試験日	合格発表日	当日の試験科目など	
総合型選抜(AO入試)第1回目	文化財	エントリー: 9/25(金) 締切 本出願: 10/7(水)~10/15(木)	10/3(土)、10/24(土)	10/31(土)	学科により異なる
	国文・史・心理・総合社会	エントリー: 10/2(金) 締切 本出願: 10/7(水)~10/15(木)	10/24(土)	10/31(土)	
	地理	エントリー: 10/2(金) 締切 本出願: 10/7(水)~10/15(木)	10/24(土)、10/25(日)	10/31(土)	
総合型選抜(AO入試)第2回目	国文・心理・総合社会	エントリー: 11/5(木) 締切 本出願: 11/10(火)~11/26(木)	12/5(土)	12/12(土)	
	地理	エントリー: 11/5(木) 締切 本出願: 11/10(火)~11/26(木)	12/5(土)、12/6(日)	12/12(土)	
総合型選抜(AO入試)第3回目	国文・心理・総合社会	エントリー: 2021・3/1(月) 締切 本出願: 2021・3/5(金)~3/11(木)	2021・3/21(日)	2021・3/22(月)	
総合型選抜 校友特別推薦		11/1(日)~11/11(水)	11/21(土)	12/3(木)	口頭試問
学校推薦型選抜 指定校制推薦入学選考		11/1(日)~11/11(水)	11/21(土)	12/3(木)	口頭試問
学校推薦型選抜 前期・後期	前期(基礎学力型、課題提示型小論文)	11/1(日)~11/17(火)、 窓口11/18(水)	11/26(木)	12/3(木)	基礎学力型は受験・判定ともに2科目
	後期(課題提示型小論文)	12/3(木)~12/14(月)、 窓口12/15(火)	12/19(土)	12/24(木)	
一般選抜	S日程	2021・1/4(月)~1/20(水)、 窓口1/21(木)	2021・1/28(木)	2021・2/3(水)	受験・判定ともに3科目
	A日程	2021・1/4(月)~1/20(水)、 窓口1/21(木)	2021・1/29(金)	2021・2/3(水)	受験は3科目、判定は高得点2科目
	B日程	2021・1/4(月)~2/4(木)、 窓口2/5(金)	2021・2/11(木・祝)	2021・2/15(月)	受験・判定ともに3科目
	C日程	2021・2/8(月)~2/22(月)、 窓口2/23(火・祝)	2021・3/3(水)	2021・3/7(日)	受験・判定ともに2科目
一般選抜 大学入学共通テスト利用入試	A日程	2021・1/4(月)~2/5(金)	2021・1/16(土)、1/17(日)	2021・2/15(月)	3科目で判定(必須、選択は学科により異なる)
	B日程	2021・2/8(月)~2/25(木)	2021・1/16(土)、1/17(日)	2021・3/7(日)	2科目で判定(必須、選択は学科により異なる)
	C日程	2021・2/26(金)~3/12(金)	2021・1/16(土)、1/17(日)	2021・3/20(土・祝)	2科目で判定(必須、選択は学科により異なる)
編入学試験・社会人編入学試験・社会人入試		11/1(日)~11/11(水)	11/21(土)	12/3(木)	口頭試問、小論文、専門科目、英語(口頭試問以外は試験制度および学科により異なる)
専門高校・専門学科・総合学科対象入試、地域貢献入試、芸術入試		11/1(日)~11/11(水)	11/21(土)	12/3(木)	
外国人留学生入試		10/1(木)~10/26(月)	11/21(土)	12/24(木)	

試験	出願期間	試験日	合格発表日	当日の試験科目など
大学院 春季	2021・1/8(金)~2/4(木)、 窓口2/5(金)	2021・2/17(水)	2021・2/20(土)	試験制度および専攻により異なる

令和館2階の壁面展示スペースでは、学生の課外活動の成果を展示し、来館者にご覧いただいています。今年1月からは、写真研究会、美術部、書道部が昨年12月に奈良県文化会館で開催した合同展示会の展覧作品を展示しています。

## 写真研究会

今年5月で結成50周年、7月でクラブ昇格45周年を迎えました。撮影会、合宿などで技術を磨き、学内で開く4月の新歓展、6月の新人展、11月の青垣祭展、12月の学外での本展の年4回の展示会で成果を発表しています。撮影はフィルムカメラを使い、現像も自分で行います。すぐに画像を確認できるデジタルカメラと違い、撮影時や現像時の出来不出来が現像後にわかるので、一か八かの面白さがあり、達成感も格別です。自分のカメラがない会員も、会の保有するカメラを使って撮影出来ます。また、現像は課外活動棟にある暗室で行っています。

撮影会では、京都の神社仏閣や植物園、動物園、鉄道博物館、大阪(伊丹)空港や神戸の異人館など、奈良から京阪神に足を伸ばします。合宿は関西圏を飛び出し、去年は愛知県の名古屋城や明治村、一昨年は四国の曾谷のかずら橋などを訪れました。

これまでは会員同士やOBOG、展示会の来場者からの意見や感想を基に技術を向上させてきましたが、今後は外部の大会、コンクールに参加し、プロの方の意見も伺いたいと思っています。



現像の準備



本展の展示準備



撮影:写真研究会

写真を通して芸術性を磨いています。常識にとらわれず、さまざまな角度から世の中を見ることで、たくさんの考えなどが生まれます。写真で世界を表現することで、また違った世界を知ることが出来ます。それが写真研究会です。



会長  
小岸 夕朔さん  
文学部地理学科  
3年生

### 受験生へメッセージ

やりたいことが自由に出来るのが大学時代です。学びたいことを学び、さまざまなチャレンジをして、たくさんを経験してください。研究会の活動自体は大変ではないので、他のサークルやアルバイトとの掛け持ちも可能です。皆さんの入学、そして当会への入会をお待ちしています！

DATA 人数:19人 活動日:火・金曜日  
活動場所:H109(部室)、H123(暗室)

## 美術部

油絵、水彩画、パステル、色鉛筆、線画、版画、貼り絵、ちぎり絵、イラスト、デジタルアート、粘土などの立体物・・・美術部では、いろいろなアートを創作し、年に4回展示会を開いて作品を紹介しています。12月の大作品展は1年の集大成であり、一人3点以上、内1点はB2サイズ以上の大作を出展します。

普段の活動日には、部員が交代でモデルになり、3分間クロッキー(速写)を1時間行い、お互いに寸評して画力の向上に努めています。大学での活動は、中学・高校の部活動とは違い、誰かに指導を受けるということはないので、うまくなりたい！と思えば、意欲的に質問して教わったり、技術を見て倣(なら)ったり、自らの意思で動く必要があります。積極的に働きかける姿勢が鍛えられると思います。



北は北海道、南は沖縄まで、全国47都道府県から学生が集まる奈良大学。下宿予定の入学志願者のために「下宿案内」を配布しており、その表紙を毎年美術部員の絵が飾っています。2020年版は文学部国文学科 西村都さん(4年生)が担当しました。

## 書道部

主に、年に3回行う展示会に向けての作品作りを行っています。字を書くだけでなく、展示するための紙の補強作業(裏打ち)や額入れなども試行錯誤しながら自分たちで行っています。

去年は、1年間の集大成である学外展で、作品の準備から会場のセットまですべて自分たちで行いました。大変な期間ではありましたが、それでも一つのことを最後までやり遂げることの大切さを学びました。

書道の魅力は、筆の動きひとつで力強い字も流麗な字も書け、繊細な作品にも迫力のある作品にも仕上げられる自由さだと思います。書道は自由で楽しいものだと多くの人に知ってもらうため、工夫した展示を作り上げられるように部全体で精進していきたいです。



2019年10月撮影

絵を描くことが好きであれば、どなたでも大歓迎です。絵は必須ですが、自分の好きなアートに挑戦することも出来ます。スノードームやレジンクラフトを出展されたOGの方もいますよ。

部長  
広澤 沙穂さん  
文学部史学科  
3年生



### 受験生へメッセージ

絵が好き！絵がうまくなりたい！という意欲さえあれば、美術部は初めてという人も大歓迎です。

DATA 人数:20人 活動日:火・金曜日  
活動場所:H121、  
H112(小合同練習場)

一見すると地味かもしれませんが、字や紙の組み合わせ次第で魅力的な作品を上げることが出来て、とても楽しいです。令和館の作品もぜひ見に来てくださいね！

部長  
徳平 千尋さん  
文学部文化財学科  
3年生



### 受験生へメッセージ

歴史を学ぶと同時に昔の人々の字に触れてみませんか？和氣あいあいと活動していますので、少しでも興味がわいたら、ぜひ遊びに来てください！

DATA 人数:12人  
活動日:火・金曜日  
活動場所:H122



令和館の展示。右が徳平さんの作品。

# 学生支援

大学生活では、学生自身が、自立して問題を解決していきます。その過程で、困ったことがあれば、ひとりで悩まず相談してください。本学では、学生支援センター 学生担当を総合相談窓口として、各部署や教職員が学生支援を行っています。

## 総合相談窓口▶学生支援センター 学生担当

「どこに相談したらよいかわからない」という場合など、学生生活で困ったことがあれば気軽に相談してください。内容に応じて、相談先を案内します。

## 障がい学生支援相談窓口▶学生相談室

障がいや疾患のある方で、学修上の心配ごと、困りごとなどがありましたら、学生相談室にご連絡ください。学生支援センター 学生担当・教務担当、授業担当教員等と連携しながら支援を行っています。

## 学生相談室

本学学生の個人的な悩みや諸問題の解決にできるだけ示唆・助言を与えるため、学生相談室が設けられています。学生相談室には、相談室のカウンセラー(臨床心理士)と学生相談員である教員がいます。

カウンセラーは、学校生活のことからプライベートまで、さまざまな悩みや考えごとについて話を聴き、一緒に考えていきます。また、自分の悩みや考えごとを「誰に相談すればいいのかわからない」という場合にも、まずはカウンセラーと一緒に考えて、相談する人を見つけていくこともできます。

大学では自分自身の判断で行動しなければなりません。入学から卒業までの長い期間には、さまざまな困難な問題にも出会うことでしょう。その問題に挫折することなく、独力で解決の方法を見いだしていくことは重要な事柄でもあります。しかし、さまざまな問題の中には独力で解決できないものもあります。このような問題に直面し、あなたがひとりで解決できないときは、「学生相談室」に連絡してみてください。



学生相談室

学生相談室(大学HP) <http://www.nara-u.ac.jp/life/counseling/>

## 医務室

看護職スタッフが在室して、学生の皆さんが心身ともに健やかに学生生活を過ごせるようサポートしています。

構内での病気・ケガの応急処置の他、健康相談、病院の紹介等の助言も行っています。

医務室(大学HP) <http://www.nara-u.ac.jp/life/dispensary/>



医務室

## 相談内容▶相談先

- ◎悩み・困りごと▶学生相談室 [カウンセラー、教員]
  - ◎障がい学生支援相談▶学生相談室
  - ◎健康相談▶医務室
  - ◎進路・就職▶キャリアセンター
  - ◎授業や専門分野を中心に▶教員
- 各学部各学科とも、特に1年生は基礎演習担当教員を中心に、2年生は学科の講読、演習、実習担当教員を中心に、3・4年生はゼミ担当教員を中心に相談を受けています。
- ◎学生生活・課外活動▶学生支援センター 学生担当
  - ◎修学(授業、単位、成績等)▶学生支援センター 教務担当

## キャリアセンター

就職や進路に関する相談を受け付けています。就職活動中の3、4年生だけでなく、1、2年生のみなさんも、気軽にキャリアセンターへ問い合わせてください。

キャリアセンター(大学HP) <http://www.nara-u.ac.jp/career/center/>



キャリアセンター

## 学生支援センター 学生担当

奨学金、留学や国際交流、学籍異動(休退学等)、課外活動などの学生生活に関する相談を受け付けています。

学生生活サポート(大学HP) <http://www.nara-u.ac.jp/life/support/>



学生生活サポート

## 学生支援センター 教務担当

授業、単位、試験、成績、資格科目など、修学に関する相談を受け付けています。特に1年生は、履修計画(履修登録)で悩むことも少なくありません。修学について、悩んだり、わからないことがあれば教務担当に相談してください。

また、教務担当からのお知らせを大学ポータルサイト(在学生専用)に掲載していますので、見落としのないよう、頻繁に確認するようにしてください。

奈良大学ポータルサイト <https://portal.nara-u.ac.jp/portal/top.do>



奈良大学ポータルサイト

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況に応じて運用方法等を変更することがあります。最新の情報は、大学HPや大学ポータルサイトでご確認ください。

## Information

### ■ 近刊紹介～本学教員の著書～

◆室町時代の祇園祭  
文学部史学科・教授  
河内将芳 著  
法蔵館  
2020年7月刊行



◆江戸時代の明智光秀  
文学部史学科・教授  
村上紀夫 著  
創元社  
2020年8月刊行



◆関ヶ原大乱、本当の勝者  
文学部史学科・教授  
外岡慎一郎 分担執筆  
日本史史料研究会 監修 /  
白峰旬 編著 朝日新書  
2020年6月刊行



## 附属高等学校

### 保育体験活動事前研修会

高校では奈良大学附属幼稚園の御協力のもと、毎年7月と12月に保育体験活動を行っています。昨年度の活動では、陶芸教室の補助、お泊まり保育の補助をはじめ、絵本や紙芝居の読み聞かせや吹奏楽部によるミニコンサートなど、生徒会役員が中心となって企画したお楽しみ会を実施しました。参加した生徒たちが園児との関わりや先生方の保育を通して学ぶことは多く、3年間欠かさず参加する生徒もいます。今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から夏の体験活動は中止としましたが、7月27日(月)、教育や福祉について関心のある生徒を対象に、澤田園長先生を講師にお迎えして事前研修会を実施しました。

研修会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や「子育て支援にかかわる様々な仕事について」「幼稚園の一日」などについて写真や絵本、音楽を通してお話いただきました。参加した生徒は、「子どもを育てながら自分自身も育てられて成長していけることが分かりました」「子どもたちの伸びていこうとする力を信じる心が大切だ」「これをきっかけに自分自身も成長していきたい」など、保育についてはもちろん、周りから支えられて今の自分があるということについて深く考えさせられた学びの時間となったようです。



## 附属幼稚園

### 笑顔いっぱいの水遊び

今年はプール遊びができないため、晴れた日は園庭で水遊びをしました。登園したときから早く水遊びをしたいという気持ちが溢れている園児たち。ワクワクしながら着替えをして園庭に向かい、「気持ちいい!」と裸足で砂の感触を楽しんでいる様子が見られました。「先生を狙うんだ」と、水鉄砲を手にした子ども達が一生懸命に先生を追いかけ、大喜びで園庭を駆け回りました。泥遊びでは、「砂場にも水を入れたい」と大きな道路をみんなで協力をしながら作っていました。

密を避けるために学年ごとに分かれての水遊びになりましたが、伸び伸びと楽しい時間を過ごすことができました。「明日も晴れますように」と笑顔でいっぱいな子ども達でした。

